



年 組 名前

道新で ワークシート

林業の学びや 全て道産材

【旭川】昨年4月に旭川市内で開校した道内初の林業の専修学校「道立北の森づくり専門学院」は18日、市内西神楽に完成した新校舎を報道陣に公開した。構造材と床材は全て道産材を使い、暖房には木質バイオマスボイラーを導入した。新年度から利用する。

新校舎は道立総合研究機構林産試験場内の仮校舎の隣接地で2019年12月に着工した。木造一部鉄筋コンクリート造り地上2階、地下1階建ての延べ1299平方メートル。教室2部屋、会

旭川 北の森学院が公開

議室、実習室を備える。総工費は約10億円。

従来の集成材より強度や断熱性に優れ、近年普及している直交集成材を道産のトドマツとカラマツで加工し、構造材の6割超で採用した。ねじれやすいカラマツは変形を防ぐ同試験場の技術「コアドライ」で乾燥させた。

寺田宏学院長は「100年先の森づくりを見据え、林業の担い手を育てる学院にふさわしい校舎になった」と話した。

(高田かすみ)



旭川市西神楽に完成した道立北の森づくり専門学院の新校舎（諸橋弘平撮影）

2021年3月19日（金） 朝刊全道版34ページ（記事は再編集しています）

①森づくり専門学校の新校舎は、どのような材料や技術を使用して作られましたか。

②「100年先の森づくり」の実現のために、わたしたちにできることは何でしょうか。また、そのように考えた理由も答えましょう。

できること：

理由：